

「外国人受け入れ整備を」

日系三世
具志さん
経験交えて講演

●東淀川区

東淀川
区西淀路

一丁目の市立日之出人権文化センターはこのほど、多文化共生社会の在り方について考える講演会を同館で開いた。講師を務めた日系ブラジル人三世・具志アンデルソン飛雄馬さん(三才)三重県Ⅱが自らの人生を振り返り、真の国際化が求められる日本での外国人の受け入れ態勢を整えることの重要性を説いた。

具志さんは、三重県内の小中高校で国際化対応教育指導員として、外国人児童生徒らをサポートする一方、各地で講演活動などを行っている。講演会で具志さんは、ブラジルに移住した日本人の子孫である日系ブラジル人の歴史背景を説明する一方、十五年前にブラジルから来日し文化や言葉などの違いに悩まされ、学校や社会で受けた差別から非行に走った経

験を語った。

「ジャパニーズなのに」差別を受けることで直面

世界の人々が仲良く暮らせる社会を願うと語る
具志さん



したルーツへの戸惑い、非行グループの長となりその世界から抜け出せないあせり、父の死で自責の念に駆られ自暴自棄になったことなど、心の葛藤(かっとう)を赤裸裸に告白。「死なずに生き

てきて良かった」と含蓄ある言葉で振り返る具志さんの人生を垣間見て、来場者ら約五十人は目頭を押さえていた。

また、国内には約百八十万人の外国人が在住し、その数は増加傾向にあるものの教育現場での外国人の受け入れ態勢は整っておらず、子どもが抱える人権問題は当時と変わっていないことを強調。

「国際化が進むことで日本の差別の歴史は変わらぬと思う。日本の国際化社会に貢献していきたい」と熱意を見せた。

(寺田英祥記者)